# 展示品のみどころ

## 迦楼羅頭部片

奈良　明日香村教育委員会所蔵
塑造
高9.2㎝　川原寺裏山遺跡出土
白鳳～奈良時代（7･8世紀）

小さな粘土像の破片。猛禽のくちばしを持つ迦楼羅の頭部である。迦楼羅は、釈迦の説法に会座する守護神。阿修羅などと並び八部衆の一つに数えられる。鳥のような顔つきは、インドのビシュヌ神を乗せて飛ぶ、黄金翼の怪鳥ガルーダがもとになっている。

本品は、昭和49年、明日香村川原寺跡の北西部で、大量の塑像（粘土で作った仏像）片と共に発掘されたものである。川原寺は7世紀中頃、斉明天皇の菩提を弔うため息子の天智天皇が建立したと言われ、飛鳥寺や大官大寺、薬師寺と並んで藤原京の四大寺に数えられた。本品は、おそらくその塔の中に安置された塔本塑像の一つで、法隆寺五重塔内に今でも見られるように、小像が集まり釈迦の事蹟を表していたと推測される。同寺は9世紀に火災に見舞われ、堂塔と仏像は灰燼に帰してしまう。炎に包まれた塑像は陶器のように硬く焼きしまり、破片となっても当時の形相は崩れずに残った。ただし、眼窩に嵌め込まれたガラス玉は、高熱によって溶け落ちてしまい、あたかも涙を流しているようである。頬を伝わり落ちる「ガラスの涙」は、この像が炎の中でも健気に立ち尽くしていたことを物語っている。

ところで、大きさこそ異なるが同じ塑像として有名なものに、東大寺戒壇院の四天王像や法華堂の執金剛神像がある。その瞳には黒く輝く玉が嵌め込まれ、通説ではこれは黒曜石であるという。縄文時代の石器に馴染んだ考古屋の意見としては、黒曜石は割って使う素材であっても、玉のように磨ける代物ではない。おそらくその瞳も本品と同じ濃褐色のガラス玉なのではないか。断定はできないが、小さな「ガラスの涙」をみるたびに、迦楼羅一人が特別ではなかったと、ちょっと贔屓目な想像をしてしまう。

吉澤悟（当館学芸部教育室長）

※平常展「仏教美術の名品」にて、12月29日～2月14日に展示

## 東大寺縁起

奈良　東大寺
絹本著色
（各幅）　縦153.8cm　横83.8cm
鎌倉時代（14世紀）

第一幅は伽藍図のような俯瞰構図で、東大寺大仏開眼供養の盛儀が説話を織り込みながら描かれている。第二幅は、穏やかな自然景のなかに東大寺にまつわる説話が散りばめられている。登場するのは良弁、行基、鑑真、聖武天皇、光明皇后などで、大仏建立に関わる説話を中心に、あわせて22の場面が細やかに描きこまれる。一つの風景のように見える画面にいくつもの説話を盛り込んでいるが、東大寺という一つの場所で重ねられた土地の記憶を集成して表すこの絵画の性格には適っている。

お水取り（二月堂の十一面観音悔過）の創始に関する話は第二幅の中ほど、水辺の下方にある。洲浜に一人の僧が坐して合掌しており、その視線の先には十一面観音が現れている。傍らの短冊形は「実忠奉請補陀落観音菩薩所」そして「生身十一面尊閼伽渡海来」と読める。さらに観音の後方を見ると波間にそそり立つ岩山があり、短冊形には「海岸弧絶山」とある。

東大寺の実忠が十一面観音悔過を始めるにあたり、はるか南方にある補陀落山に住む「生身」の観音を本尊に迎えたいと祈りを捧げた。するとついに閼伽（仏前に供える水）用の器に乗った十一面観音が補陀落山から海を越え、実忠の前に現れたという場面である。十一面観音悔過の本尊は、観音の姿を写した観音「像」ではなく本来の住処を離れてやってきた本物の観音なのであるとする。この説話は語り継がれてゆくが、本図はその明確な絵画化の最古例である。

北澤菜月（当館学芸部研究員）

※特別陳列「お水取り」にて、2月6日～3月14日に展示

## 開館予定（1月～3月）

■開館時間

午前9時30分～午後5時
〔開館時間延長日〕
1月23日（土）、2月3日（水）、3月12日（金）
—午後7時まで
2月11日（木･祝）～14日（日）
—午後9時まで
3月1日（月）～11日（木）･13日（土）･14日（日）
—午後6時まで
※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休 館 日

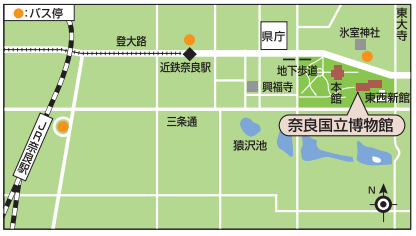
月曜日（祝日の場合はその翌日）、
3月15日（月）～4月2日（金）
※3月1日･8日は月曜日ですが開館します。

## 観覧料金

□平常展･特別陳列

| | 一　般 | 大学生 |
|---|---|---|
| 個　　人 | 500円 | 250円 |
| 団　　体 | 400円 | 200円 |

＊団体は20名以上です。
＊高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者同数を含む）は無料です。
＊2月3日（水）は、すべての方の観覧料金が無料となります。
＊毎月22日は「夫婦の日」として、ご夫婦で観覧される方は一般料金の半額で観覧できます。
＊子ども（中学生以下）と一緒に観覧される方は団体料金が適用となります。〔子どもといっしょ割引〕




〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅･近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社･国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等（有料）をご利用ください。


奈良国立博物館
Nara National Museum

『奈良国立博物館だより』は、1･4･7･10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。



〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）　ハローダイヤル 050-5542-8600　ホームページ（URL）http://www.narahaku.go.jp/